

平成26年度 第1回 東北森林管理局 国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1. 開催日時、場所

平成26年6月12日（木）13:30～15:30 東北森林管理局 4階第3会議室

2. 出席者

【委員】

黒瀧委員、向中野委員、澤田委員、高橋委員、林委員、菊地委員、太田委員。
庄子委員欠席に伴い、(株)仙台木材市場代表取締役専務竹澤氏がオブザーバー出席。

【東北森林管理局】

局長、森林整備部長、資源活用課長、企画官（木材需給対策）

3. 結果

今すぐ国有林材の供給調整を行う切羽詰まった状況ではない。
消費増税の影響も含め、森林管理局には今まで以上に情報収集に努めてもらいたい。

4. 主な意見

（国産材需給）

- 原木不足は解消されてきたが、3.00m、3.65m材の引き合いは強い。製材用はある程度需給バランスがとれている。合板用は強含みで、原木・ラミナとも一段高い価格で安定推移。チップ用は不足。
- 6月以降の原木不足を想定して、事前集荷による在庫維持に努力。
- 地域に新たな木材関連工場ができることとなると、東北全体として共存共栄するためには、需給バランスをとるための情報交換が必要。
- 九州ではバイオマス向けの原料の確保によりB・C材の値上げが顕著でそれがA材に影響している。東北においてもA・B・C・D材のバランスをどうとっていくのが課題。

（住宅関連）

- 公営住宅は年度内工事が一段落し需要も落ちたが、まだ相当数完成していない状況。適切な在庫保有が必要。
- 岩手県では、慢性的な作業員不足とトラック不足が続いている。高性能林業機械購入への継続的な支援措置が必要。

（他地域への輸送、輸出）

- 中国向け輸出について、取引先からは継続的に輸入したいと言われている。
- 為替安定の中、米マツは下がっている。レッドウッドも2,000～3,000円/m³下がっている。不測の事態も懸念。
- 油代が高く関東に輸送するにも影響が出てきそう。
- 集成材は在庫が一杯になっている中で、採算割れしている欧州からの入荷が続いており、需給バランスの悪化が心配される。一方で、管内外の工場から集成材ラミナが高値で引き合い有り。